

学級活動指導案

日時 平成29年5月26日（金）第3校時
対象 3年1組（男子20名 女子20名 計40名）
指導者 教諭 眞 邊 剛

1 題材「学習の悩みや不安を解決しよう」

2 学習指導要領との関連

内容項目：(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成

3 題材（テーマ）設定の理由

情報社会の現代においては、コミュニケーションの形態や様式も多様化し、集団や社会の中での人と人との関係性にも変化が表れている。このような社会においては、他者とよりよい人間関係を構築しながら集団や社会の課題を見だし、その解決に向けて主体的に行動したり、自分の生き方についての考えを深めてよりよい自己実現を図ったりしていく力が求められている。

新学習指導要領では、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、三つの資質・能力を育成することを目指す」とある。このことから、日々の学習と進路の選択に主体的に取り組む態度や力の育成が求められている。

中学3年生になると、進路の選択が切実な問題になり、学習についての悩みや不安が大きくなっていく。そこで、学習や生活の見通しを立て、生徒が互いに学習の仕方を学び、それらを振り返りながら、学習に意欲をもって取り組み、将来の生き方を考えるようにすることは重要である。このことから、生徒たちに学習についての悩みや不安を解決させるために話し合い活動を充実させたい。

本題材では、生徒自身の学習の悩みや不安が、他者の悩みや不安と関連している点がないかを考えさせ、問題を構造的に捉えさせることで、根本的な問題点に気付かせる話し合い活動を充実させることにした。その上で、進路決定に向けて、学習成果を上げるための具体的な解決策としての共通実践事項を決定させ、実践させ、振り返らせることにした。このように、生活の中で解決すべき問題が生じたときには、その問題の原因や解決方法を多角的に考え、構造として捉えて判断することで、最適な具体的解決策が見いだされ、解決につながれることを学ばせたい。

指導に当たっては、「学びのプロセス」及び「話し合いのプロセス」を踏まえ、学習についての悩みや不安の具体的解決策をグループで話し合わせる。その際、「システム思考」を踏まえた「冰山モデル」を活用して、「時間による変化」や「つながりと構造」に着目させ、悩みや不安の背景にある根本的原因に気付かせるようにした。その上で、より効率的かつ効果的な具体的解決策を、共通実践事項として集団で決定させたい。このような指導の過程においては、指導者が寛容かつ積極的な支援を行っていき、広がりや深まりのある話し合いにしていきたい。

このように、生徒に学習についての悩みや不安と向き合わせながら、具体的解決策を決定・実践さ

せていく創造的な学びを展開して、創造的に考える力や考えようとする態度を形成させたいと考え、「学習についての悩みや不安を解決しよう」という題材を設定した。

4 題材（テーマ）における指導目標

- (1) 学習の悩みや不安の原因や解決方法を考え、自分自身の学習への取組を見つめ直す態度を養う。
- (2) 学習の悩みや不安を多角的に考え、よりよい解決策を見いだし、実践できるようにする。
- (3) 問題を解決するには、問題の原因を明らかにし、多様な解決方法を考え、その中から最もよい方法を決定し、実行することが大切であることを理解させる。

5 評価の視点と本実践における評価規準

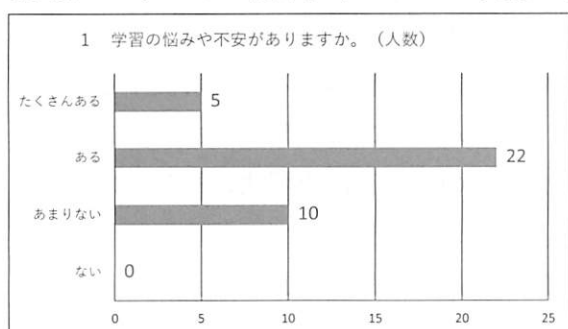
生活や人間関係をよりよくするための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学ぶことの意義を理解したうえで、自己の学習の実態、問題点などを把握し、その問題などの解決に向けて取り組むべきことを理解している。	学習の悩みや不安の根本的な原因やその解決策を、他者と交流することで具体的に考え、共通実践事項を決定し、自己の実態と照らし合わせながら具体的に実践している。	よりよく学ぶことに関心をもち、他者と問題点や解決策について話し合い、共に実践していくことを通して、よりよい学習集団を築こうとしている。

(1) ICEモデルを用いたルーブリック

	Iを達成している段階	Cを達成している段階	Eを達成している段階
創造的に考える力や考えようとする態度	学習の悩みや不安を知り、話し合いの意義を見いだし、様々な立場から意見を述べる段階。	学習の悩みや不安を時間による変化やつながりから捉えた上で、根本的な原因を見いだし、最適な解決策を決定する段階。	設定した共通実践事項を具体的に実践し、日常の他の場面にも生かしている段階。

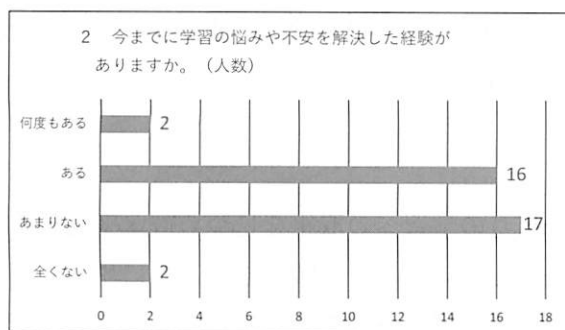
6 生徒の実態

【事前アンケートの結果】（H29.4.14実施 対象：3年1組 37名 ※ 欠席等3名）



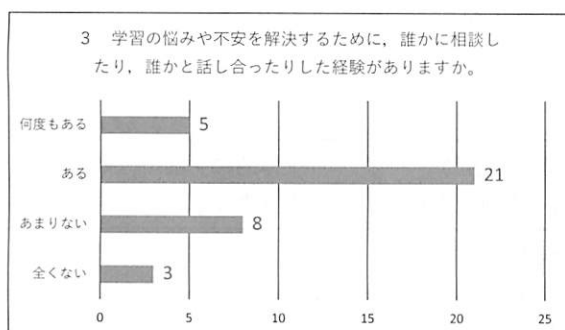
1-1 悩みや不安の内容（回答の一部）

- ・ 英語が苦手である。
- ・ 数学の計算のミスをする。
- ・ 社会の歴史の人物名を覚えられない。
- ・ テストの点数につながらない。
- ・ 勉強方法が分からない。
- ・ 集中できなくて眠い。 ・ やる気が出ない。
- ・ 家庭学習でやる気が出ない。



2-1 解決方法の内容(一部)

- ・ 成績のよい人に聞く。
- ・ 塾に行く。
- ・ 塾や学校で先生に質問する。
- ・ 勉強するときとゆっくりするときを分ける。
- ・ 図書館や自習室を利用する。
- ・ 学習時間を増やす。
- ・ 問題集を解く。
- ・ ひたすら演習する。



3-1 相談や話し合った相手

- ・ 学校の先生
- ・ 塾の先生
- ・ 友達
- ・ 母
- ・ 父
- ・ 兄

【考察】

本学級は、明るく素直な生徒が多い。授業中の発表やグループ活動で意欲的に発言し、積極的に取り組む生徒も多く、主体的に考えて行動しようとする姿が見られる。アンケート結果によると、「学習についての悩みや不安がある」という質問に対し、「たくさんある」5名(14%)、「ある」22名(59%)と答えている。このことから、多くの生徒が学習への悩みや不安を感じていることがわかる。

その悩みや不安の内容としては、「数学の成績が上がらない」、「英語が苦手である」など、特定の教科の成績に関する内容を挙げている生徒が多くいる一方で、「家庭学習でやる気が出ない」、「集中できない」、「眠くなる」などを挙げている生徒もいる。このことから、学習への取り組み方に関する悩みや不安を抱えている生徒も多くいることがわかる。実際には、学習成果の上がりにくい生徒は、授業や家庭学習への取り組み方に課題を抱えている実態がある。

また、「今までに学習に対する悩みや不安を解決した経験がある」という質問に対しては、19名(52%)の生徒が「あまりない」「全くない」と答えており、具体的解決策を見いだして実践してきた経験のない生徒も多いことがわかる。その一方で、「学習に対する悩みや不安を解決するために、誰かに相談したり誰かと話し合ったりした経験がある」という質問には、「何度もある」3名(8%)、「ある」21名(57%)と答えている。このことから、他者との意見交流を解決に結びつけるきっかけにしようとしたことのある生徒が多いことがわかる。

以上のことから、学びのプロセスを通して、それぞれの悩みや不安を率直に出し合い、多くの生徒に共通する悩み、あるいは、深刻な悩みを学級の問題として受け止め、それらの問題を構造的に捉えて、根本的な原因に着目させたい。また、より効果的で具体的解決策を話し合わせて実行させ、成果を確かめ合うといった活動を展開させたい。

7 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日等	活動の場	活動内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿
4/14	MT 全員	事前アンケートに回答する。	学習や進路に関するアンケートに回答させることで、学習についての、自分自身の悩みや不安などについて考えさせる。	学習に関する自分自身のめざすべき姿や現状について考えることで、今後の学習に対する取組をより充実させていこうとしている。
4/21	放課後 学級運営 委員	アンケートを集計する。	アンケート結果の集計を行わせることで学級の実態を把握させ、級友がもっている学習についての悩みや不安にはどのような傾向があるのかについて意見交換をさせる。	アンケート結果から学級の実態を把握し、自己や級友の学習に関する現状について見つめ直している。
5/21	学級活動 全員	システム思考を踏まえた氷山モデルを活用して、悩みや不安のつながりについて考える。	アンケート結果を発表し、学級全体の学習に関する悩みや不安の傾向を捉えさせ、本題材の学習に対する見通しをもたせる。 グループの中で、互いに学習に関する悩みや不安のつながりに気付かる。	互いの学習の悩みや不安のつながりについて班員と交流しながら探っていくことを通して、悩みや不安の構造について考えている。
5/23	放課後 学級運営 委員	基本のループ図を作成し、本時の進行について確認する。	各グループが作成したループ図を1つに集約させ、本時の学習の進め方について確認させる。	学習の悩みや不安について具体的解決策を考えられるように、考えや意見を整理し、的確にループ図にまとめている。

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 題材 「学習の悩みや不安を解決しよう」

イ 本時のねらい

学習の悩みや不安のつながりを考え、構造的に捉えることで、その背景にある根本的な問題点に気づき、解決するために具体的解決策を考え、共通実践事項を決定することができる。

ウ 展開

過程	活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿
活動の開始 10分	1 前時までの授業内容を振り返る。(全体) 2 社会の実態を知る。(全体) 3 課題を設定する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 前時に、グループで学習に関する悩みや不安のつながりを考えたことを振り返らせる。 【※Ⅱ-1(1)】 社会全体に目を向けても、学習に関する不安や悩みを抱えている中学生が多く、またそれは、高校生にも通じる悩みや不安であることを捉えさせる。 	◎ 本時の話合いの意義を理解し、課題を見いだして、学習しようとしている。
みんなの学習の悩みや不安を解決するためにはどのような共通実践が最も効果的だろうか。		【※Ⅱ-1(2)】	
活動の展開 30分	4 学級のみんなの悩みや不安を整理したループ図を、運営委員が発表し、そのつながりを確認する。(全体) ----- 個々の悩みや不安は、示されたループ図のどの部分とつながりがあるだろうか。 ----- 5 根本的な問題点と、その解決のための具体策について話し合う。(グループ) ----- みんなの悩みや不安を解決するためには、ど部分にどのような解決策を設定することができるだろうか。 ----- 6 解決策の案を発表し、問題の解決により有効な方法について話し合う。(全体) 7 学級全体で取り組む「共通実践事項」を決定する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ループ図を提示させながら説明させ、個々の悩みや不安が、他者の悩みや不安とどのようにつながっているのかを確認させる。 運営委員をグループの話合いの進行役とし、具体的解決策の案を話し合わせる。 【※Ⅱ-2(2), Ⅱ-1(3)】 全員の悩みや不安を解決することにつながる具体策になっているかを考えさせる。 【※Ⅱ-1(3), Ⅱ-2(1)】 「共通実践事項」として決定させることで、実践へとつなげさせる。 【※Ⅱ-1(1)】 	◎ 本時の話合いの意義を理解し、自分の考えを述べている。 ◎ 悩みや不安のつながりを捉えた上で、より有効な解決策を考えている。
活動のまとめ 10分	8 今日の学習を基に、今後どのように実践していくか、ワークシートに記入する。(個) 9 教師のまとめを聞き、決めたことを実践につなげる意欲をもつ。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 今日の活動を通して気付いたことを基に、これからの自分の実践に見直しをもたせ、ワークシートに記入させる。 【※Ⅱ-2(3)】 これからの生活で実践し、生活記録に記入していくことを伝える。 	◎ 決定した共通実践事項を、意欲的に実行しようとしている。

(3) 事後の活動と生徒の活動

期日	活動の場	指導上の留意点	めざす生徒の姿
随時	実際の生活 全員	本時の学びを実践させ、生活記録に振り返りをさせる。	実践して、その有効性を実感している。
6月下旬	学級活動 全員	決定した共通実践事項の実践状況と、その効果を考えさせ、その後の実践の改善につなげさせる。	実践状況とその結果とのつながりを捉え、さらなる改善への意欲をもち、実践につなげようとしている。